

青 森 り ん ご 総 合 戦 略

令和7年9月13日

青 森 県

知事からのメッセージ

明治8年。青森の地に3本のりんごの苗木が植えられてから150年。りんごは、青森の人々の暮らしとともに歩み、今では青森県を象徴する実りとなりました。

開拓の時代。知見や技術が乏しい中、思い通りにならない自然の中で、失敗と工夫を繰り返し、それでも諦めずに挑み続け、一つ一つのりんご果実に真摯に向き合った先人たち数々の挑戦が、時代とともに進化し、今の青森りんごの礎となっています。

そして、青森りんごは、本県経済や生活・文化と深く結び付き、生産や販売のみならず、加工や観光といった魅力ある関連産業を創出する裾野の広い産業へと成長し続けています。

しかしながら、進行する人口減少は、40万トンの生産量、国産りんごのシェア6割、10年連続で販売額1,000億円の大台を突破している日本一のりんご産地にも、担い手の減少、労働力不足、国内消費の減退といった形で静かなる危機となって押し寄せています。

私は、「#あおばな」など県民との対話から、この危機を打開していこうとする関係者の青森りんごに抱く情熱に心打たれました。

50年先、100年先も優れた外観で美味しい青森りんごとその産業全体を県民みんなで支えていく、そのためのグランドデザインとして、多くの御意見を踏まえ、この度、「青森りんご総合戦略」を策定しました。

本戦略は、50年後の未来を見据え、15年後(2040年)のめざす姿を「夢をもって働ける 稼げる青森りんご産業」としています。そして、「生産量40万トン以上」、「販売額1,800億円以上」の目標達成に向けて、「生産の高度化」、「販売力の強化」、「経済波及の拡大」の3つを行動方針に掲げ、県民一体となってダイナミックに取り組んでいきます。

「りんご王国」青森、県民一人ひとりが青森りんごの一層の飛躍を目指し、各々の努力と情熱で、植栽200年の未来を見据えた「青森りんご新時代」を一緒に築いていきましょう。

繋いできた150年。ここから新たな歩みが始まります。



令和7年9月
青森県知事

宮下 宗一郎

目次

1 青森りんご総合戦略の位置付け	1
2 2040年のすう勢	2
3 総合戦略のKGI	4
4 KGI達成のための行動指針	6
5 取組の方向性 (1)生産の高度化	7
(2)販売力の強化	11
(3)経済波及の拡大	15
6 青森りんご総合戦略検討会議	19



1 青森りんご総合戦略の位置付け

- ☑ 総合戦略は、植栽200周年を迎える時にも、国内外から評価されるりんご産地であり続けるためのグランドデザインとして、**2040年(15年後)を見据えた、青森りんご産業全体の【めざす姿】とその実現に向けた中長期の【行動指針】**から構成
(総合戦略に基づく短期(5年間)の行動計画として、既存の「青森県輸出戦略」や「青森県観光戦略」があり、今後、「青森県果樹農業振興計画」を別途作成)

県行政運営の基本方針

青森県基本計画

「青森新時代」への架け橋

2040年のめざす姿

若者が、未来を自由に描き、
実現できる社会



令和5年12月8日 県議会議決

青森りんご産業の中長期計画

青森りんご総合戦略

未来を変える「挑戦」

2040年のめざす姿

夢をもって働ける
稼げる青森りんご産業



令和7年9月13日 公表

関連する短期計画

青森県果樹農業振興計画

総合戦略実現に向けた
5年間の行動計画

令和8年3月 公表予定

青森県輸出戦略

2024~2028年
令和6年3月 策定

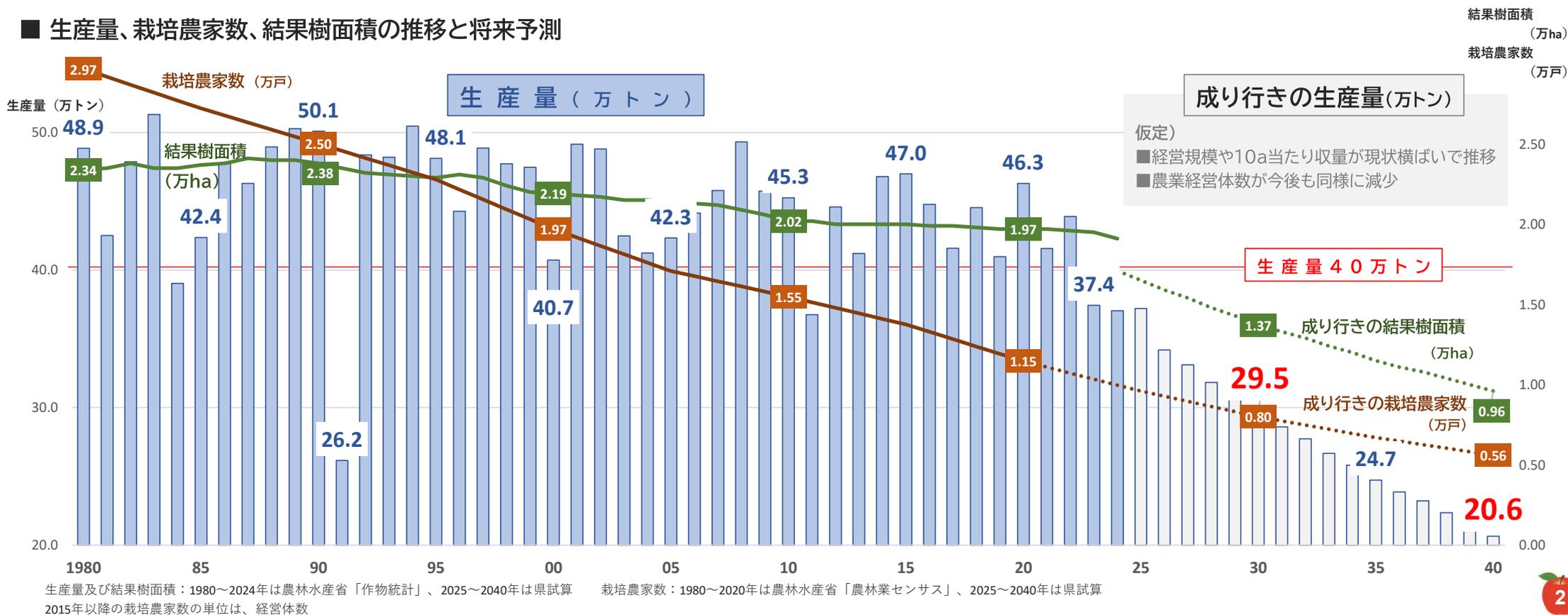
青森県観光戦略

2024~2028年
令和6年3月 策定

2 2040年のすう勢（県産りんご生産量）

- ☑ 県産りんごの生産量は、栽培農家が減少する中であって、結果樹面積を維持することで、長らく40万トン以上の水準で推移
- ☑ 2023(令和3)年以降2年連続で40万トンを下回っており、今後、経営規模の拡大や収量性が現状のままで推移し、農業経営体数が今後も同様に減少すると仮定すると、2030年には30万トン、2040年には20万トン近くまで減少

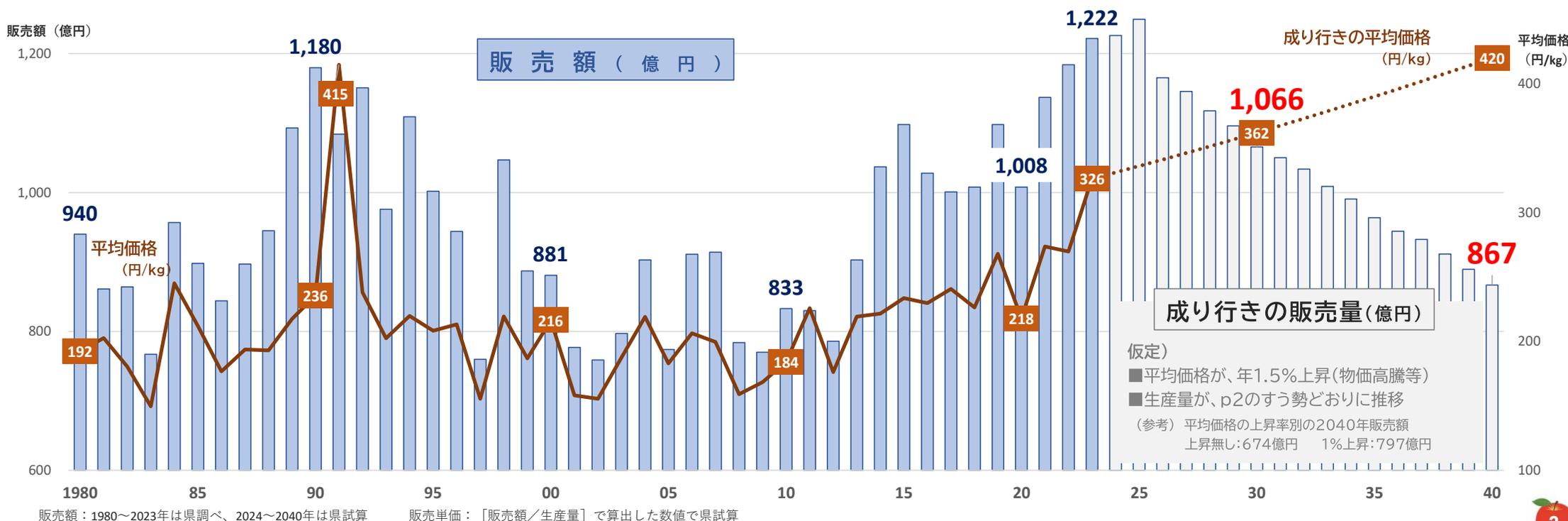
生産量、栽培農家数、結果樹面積の推移と将来予測



2 2040年のすう勢（県産りんご販売額）

- ☑ 県産りんごの販売額は、1990年頃に1,000億円を超えていたものの、バブル崩壊等により長らく800億円で推移
- ☑ 近年、価格の上昇に伴い、2014(平成26)年から10年連続で1,000億円を回復し、2023(令和5)年は過去最高の1,222億円
- ☑ 今後、生産量がすう勢どおりに減少し、価格が毎年1.5%上昇すると仮定すると、2040年の販売額は900億円を下回る

■ 販売額、平均単価の推移と将来予測



3 総合戦略のKGI

- ☑ りんご産業の関係者は将来的な生産量の減少に危機感を持っており、産業全体が衰退していくと認識しているため、KGIは生産量にフォーカスし、40万トン以上の確保に設定
- ☑ 生産量の確保とあわせ、稼げるりんご産業を実現するため、販売額1,800億円以上の確保に設定

総合戦略の方向性

2040年のめざす姿

夢をもって働ける
稼げる青森りんご産業

すう勢

何の対策も講じなかった場合、

2040年には、生産量は20万トン近くまで縮小

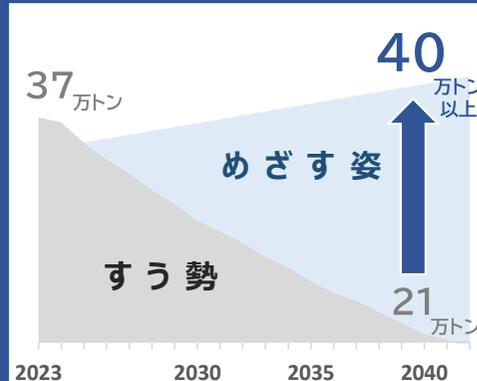
販売額は900億円未満へ減少

雇用の場や域外マネーが減少し、地域経済の衰退が懸念

総合戦略のKGI(2040年)

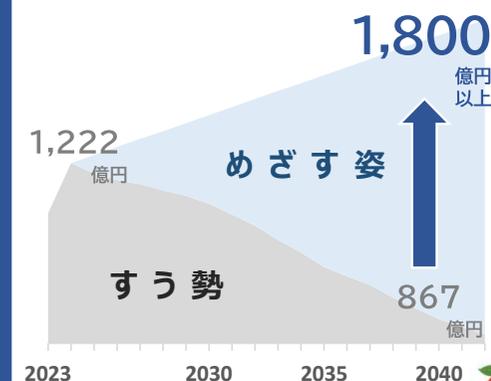
生産量

40 万トン以上



販売額

1,800 億円以上



生産量40万トンの達成に向けて

担い手の規模拡大

1経営体当たり経営面積 2020年 **1.72** ha ⇒ 2040年 **3.52** ha

2020年：11,464経営体 × 1.72ha × 20.3トン/ha ≒ 40万トン

2040年：5,600経営体 × 3.52ha × 20.3トン/ha ≒ 40万トン

※ 2000年:1.11ha⇒2020年:1.72ha (55パーセント増加)

新規就農者の確保

新規独立自営就農者 2040年まで **5,900** 人 ⇒ 393 人/年

要確保数：11,464経営体(2020年) - 5,600経営体(2040年すう勢)

≒ 5,900経営体 [取組15年:393人/年]

※ 果樹主体の新規独立自営就農者実績 61人(令和5年度)

高密植園地の拡大

新規開園面積 2040年まで **3,480** ha ⇒ 232 ha/年

要開園面積：40万トン(KGI) - 20.9万トン(2040年すう勢) = 19.1万トン

19.1万トン ÷ 55トン/ha ≒ 3,480ha [取組15年:232ha/年]

※ 果樹経営支援対策事業等実績 23.2ha(令和5年度)

販売額1,800億円の達成に向けて

りんご1キログラム当たり価格の上昇

	2023年	2040年
生産量	37.4 万トン	40.0 万トン
販売額	1,222 億円	1,800 億円

平均価格
(1kg当たり販売額) 2023年 **326** 円/kg ⇒ 2040年 **450** 円/kg

[2040年まで、年2%価格上昇]

4 KGI達成のための行動指針

- ☑ 減少傾向にある生産量を取り戻すことのハードルは高く、生産現場の取組だけでは、KGIの達成は困難
- ☑ 高度に細分化・分業化されてきたサプライチェーンを構成する生産・流通・加工が連携し、更には広く県民を巻き込んだ取組の展開が必要なことから、めざす姿の実現に向けて3つの行動指針を設定

K G I

Key Goal Indicator

重要目標達成指標

生産量

40 万^ト以上

販売額

1,800 億円以上

を確保する

KGI達成に向けた3つの行動指針

生産の高度化

世界トップの生産技術をアップデートし、限られた労力で「質」と「量」を両立する

販売力の強化

築き上げたブランド価値を更に高め、青森りんごを選んでいただけるお客様を増やす

経済波及の拡大

観光や関連産業との連携を深め、収益源の拡大と地域エンゲージメントの向上を図る

行動指針における取組の方向性

人財

新規就農や企業参入等、多様な人財の確保・育成

農地

優良園の継承推進と省力樹形園地の拡大

技術

高品質安定生産の基盤となる栽培技術の指導と継承

流通

消費者の求める商材を生産する産地の形成

販売

国内外から評価され続けるブランド価値の維持

加工

加工事業者の生産参入や生産者との連携強化

文化観光

価値観や素材を生かした産業観光の拡大

関連産業

成長が見込まれる産業分野への取組の拡大

情報発信

国内外への戦略的な発信と県民の貢献意欲の向上

5 行動指針 (1) 生産の高度化

世界トップの生産技術をアップデートし、限られた労力で「質」と「量」を両立する

最大の課題は労働力の不足。高品質生産を前提としつつ、単位面積や収穫量当たりの労働時間を削減するための生産技術の確立と産地構造の転換が必要

【現状認識】

人 財



これまで以上に担い手・労働力の確保対策が必要

- 後継者不足が深刻。非農家出身の新規独立就農は期待できるものの、技術の習得や地域への定着には時間がかかる
- 繁忙期の労働力として活躍する人材が高齢化し、不足している

農 地



栽培面積の急激な減少の緩和と、生産性の向上が必要

- 後継者不在で優良園が伐採され、栽培面積が減少し続けている
- 高密植栽培は、省力化や収量の増加が期待できるが、高い初期投資に加え、本県の気象条件下での高品質安定生産に向けた課題が多い

技 術



気象変動や労働力不足に対応した技術革新が必要

- 夏季高温や豪雪等の極端な気象変動が、品質・収量に影響を与えている
- しっかりとした技術指導がなければ、“省力栽培”は“手抜き栽培”になりかねず、食味や品質の低下につながる

【取組の方向性】

新規就農や企業参入等、多様な人財の確保・育成

産地が一丸となって、新たな担い手を育む

地域住民が安心して働ける場所にする

優良園の継承推進と省力樹形園地の拡大

マルバ園地の生産性向上を図り、次世代へ継承する

平坦適地に集積・集約化した省力樹形園地を拡大する

高品質安定生産の基盤となる栽培技術の指導と継承

気象変動や労働力不足でも高品質安定生産を実現する

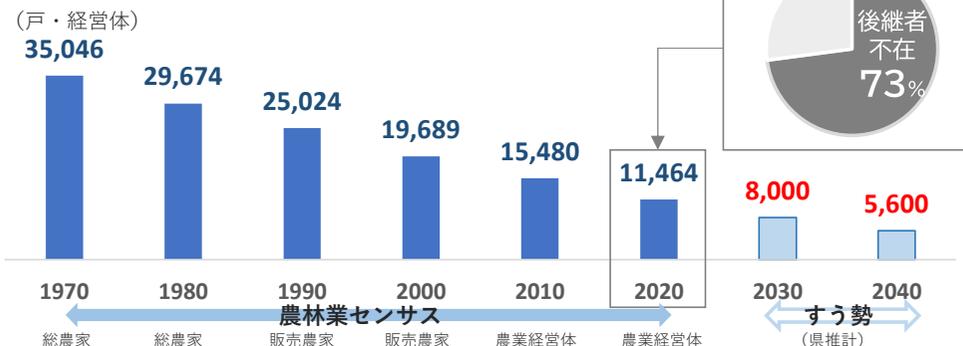
優れた栽培技術を共有し、次世代へ確実に継承する

5 行動指針 (1) 生産の高度化

【現状認識】

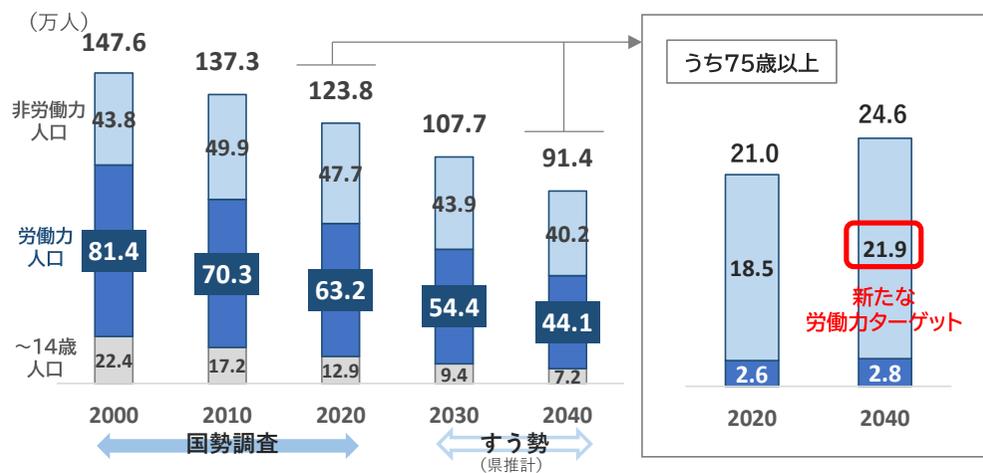
これまで以上に担い手・労働力の確保対策が必要

りんご栽培農家数の推移 (本県)



労働力人口の推移 (本県)

労働力人口：15歳以上の就業者と求職者の合計



【取組の方向性】

新規就農や企業参入等、多様な人財の確保・育成

産地が一丸となって、新たな担い手を育む

- ☑ 進学や就職で他出した農家子弟のUターン・孫ターンを推進
- ☑ 非農家出身者の新規独立就農、企業等の参入を推進
- ☑ 集落内における定年帰農を推進



地域住民が安心して働ける場所にする

- ☑ 様々なキャリアパスに対応した雇用就農を推進
- ☑ 勤労意欲のある高齢者や障がい者などの活躍の場として、雇用の拡大を推進
- ☑ 改植作業や労働力支援を行う新たなサービス事業体の育成や共同防除組織の事業拡大を推進

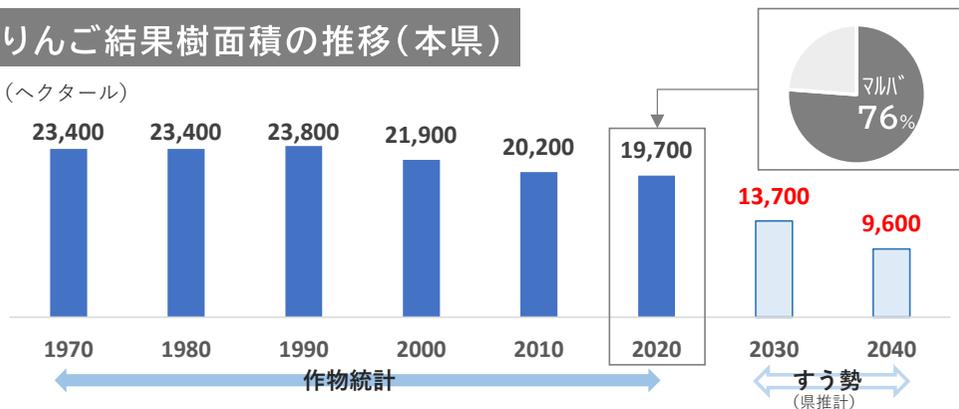
5 行動指針 (1) 生産の高度化

【現状認識】

栽培面積の急激な減少の緩和と、生産性の向上が必要

りんご結果樹面積の推移 (本県)

(ヘクタール)



樹園地の植栽の現状



整列化された園地

- 樹齢を重ねたマルバ園地は、整列されておらず、園内作業道や選果スペースが確保できないため、**生産量や作業効率が低下**
- 歴史のある山麓の開墾樹園地は、所有者の異なる小規模な区画が入り組んでいるため、大区画化等の**作業性の良い樹園地形成が困難**

【取組の方向性】

優良園の継承推進と省力樹形園地の拡大

マルバ園地の生産性向上を図り、次世代へ継承する

- ☑ 既存園地の漸進更新(※)等による整列化や、作業道、選果スペースの整備を進め、生産性の向上を推進
- ☑ 後継者不在の園地の担い手への継承を推進
 - ※既存樹の列間に苗木を植え、量を維持しながら、数年後に既存樹を伐採して園地の若返りを図る改植方法

平坦適地に集積・集約化した省力樹形園地を拡大する

- ☑ 機械による省力化が期待されるわい化栽培は、平坦な適地に集積・集約化した上で、拡大を推進
- ☑ 高密植栽培は、本県の自然環境下での知見を蓄積するため、篤農家による「青森型の栽培体系」の構築を進めながら普及を推進



細がた紡錘形わい化栽培



高密植栽培

5 行動指針 (1) 生産の高度化

【現状認識】

気象変動や労働力不足に対応した技術革新が必要

8月の平均気温の推移(弘前)

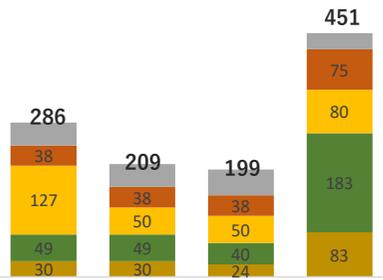


2月の最大積雪深が1mを超えた年(弘前)

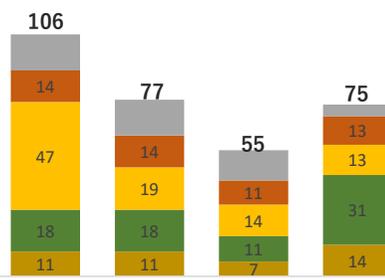
2005(145cm)、2006(139cm)、2012(124cm)、2013(153cm)、2015(140cm)、2022(112cm)、2023(120cm)、2024(160cm) ※2000年以降

栽培樹形別の労働時間

10aあたり労働時間



1tあたり労働時間



マルバ有袋 マルバ無袋 わい化 高密度植
青森県「主要作物の技術・経営指標」等から作成

○省力化が必要だが、誤った省力化による品質低下が懸念される

【取組の方向性】

高品質安定生産の基盤となる栽培技術の指導と継承

気象変動や労働力不足でも高品質安定生産を実現する

- ☑ 青森りんごの未来をけん引する新品種を開発・導入
- ☑ 需要に応じた苗木の安定生産体制を構築
- ☑ 気象変動に対応した栽培技術や労働力不足に対応した軽労化・省力化技術を確立
- ☑ 費用対効果や操作性に優れた機械の導入を推進



優れた栽培技術を共有し、次世代へ確実に継承する

- ☑ 生産現場で培われた技術や試験研究等で得られた知見を普及拡大するとともに、次世代へ継承する指導者を確保・育成
- ☑ 環境変化にスピード感をもって対応するため、生産者・指導機関・試験研究機関の緊密な情報共有を推進

5 行動指針（2）販売力の強化

築き上げたブランド価値を更に高め、青森りんごを選んでいただけるお客様を増やす

低品質なりんごの高値販売や加工商品の供給量減少等により、消費者のりんご離れや青森ブランドのイメージ低下が懸念されるため、生産量の増加と併せて販売力を強化する取組が必要

【現状認識】

流 通



黄色品種や無袋栽培の増加により商材のバランス確保が必要

- 増産傾向にある黄色、無袋、葉とらずなどは、消費地の需要動向に基づく生産に向けて、産地にフィードバックしていくべき
- NZ産りんごの品質が向上しており、端境期の県産りんごの脅威になっている

販 売



人口減少等による国内マーケット縮小への対応が必要

- 国内マーケットでは、全ての世代で消費量が低下しており、りんごを食べない若者世代が高齢になると、ますます消費が落ち込むことが懸念される
- 外観・食味に優れるりんごの生産量が減ると、輸出量の確保が困難になる

加 工



加工業の持続発展に向けて、原材料の調達対策が必要

- 県産りんごの加工品は、品質の高さなどから引き合いが強いが、加工原料の不足により、供給が間に合っていない
- 加工原料の供給量と価格の年次変動が大きく、加工業者の負担になっている

【取組の方向性】

消費者の求める商材を生産する産地の形成

消費者ニーズに基づいた生産体制を構築する

有袋栽培又は代替技術により周年供給を維持する

国内外から評価され続けるブランド価値の維持

消費動向に対応し国内需要を確保する

輸出先の信頼を確保し、更なる海外需要を開拓する

加工業者の生産参入や生産者との連携強化

加工業者の生産参入を促進し、原料を安定調達する

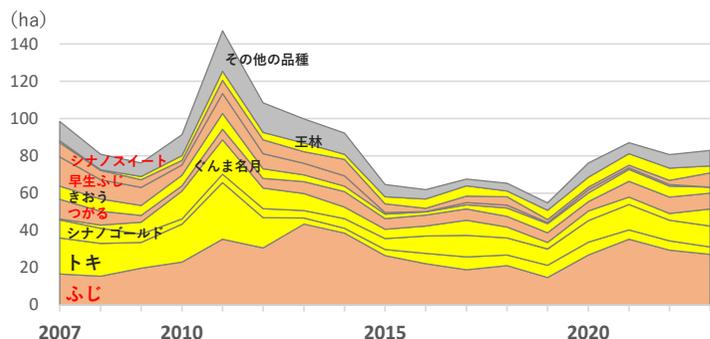
生産・加工の連携強化を図り、加工業を拡大する

5 行動指針 (2) 販売力の強化

【現状認識】

黄色品種や無袋栽培の増加により商材のバランス確保が必要

改植・新植品種の推移



2007～2023年累計(ha)

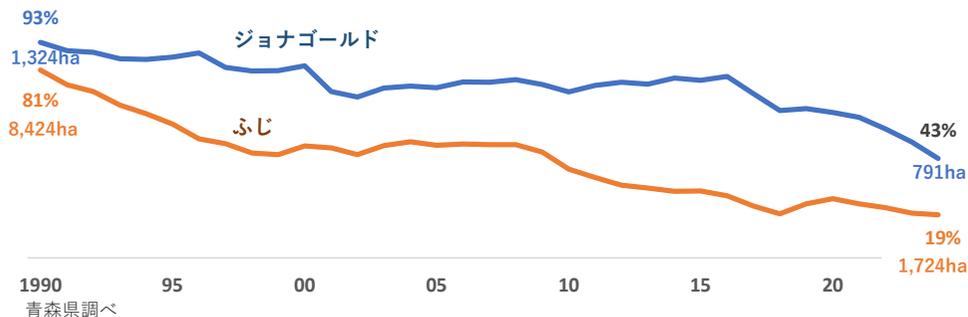
1	ふじ	444
2	トキ	172
3	シナゴールド	136
4	ぐんま名月	119
5	つがる	109
6	きおう	81
7	早生ふじ	79
8	シナノスイート	77
9	王林	67
10	その他	151
合計		1,435

※黄色品種が4割

青森県青果物価格安定基金協会

○着色管理の不要な黄色品種の割合が高まっており、この状態が続くと、需要の高い赤色品種の販売への影響が懸念される。

有袋栽培の割合の推移



青森県調べ

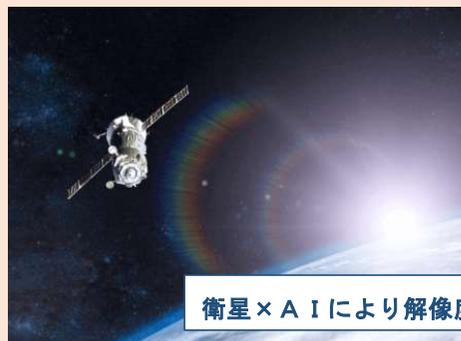
○有袋栽培が減少傾向にあり、周年供給や輸出への影響が懸念される

【取組の方向性】

消費者の求める商材を生産する産地の形成

消費者ニーズに基づいた生産体制を構築する

- ☑ 消費者ニーズの定量データ把握・分析
- ☑ 衛星データの活用による地域、品種、樹形・栽培方法別の確度の高い生産面積を把握し、それに基づく販売戦略を構築
- ☑ 消費者ニーズを生産現場へフィードバックし、産地計画を検討



衛星×AIにより解像度高く生産状況を把握し、流通・販売戦略を構築

有袋栽培又は代替技術により周年供給を維持する

- ☑ 有袋りんごの生産量の確保や鮮度保持剤(1-MCP剤)の効果的な活用、新たな貯蔵技術の開発促進等により周年供給を維持

5 行動指針 (2) 販売力の強化

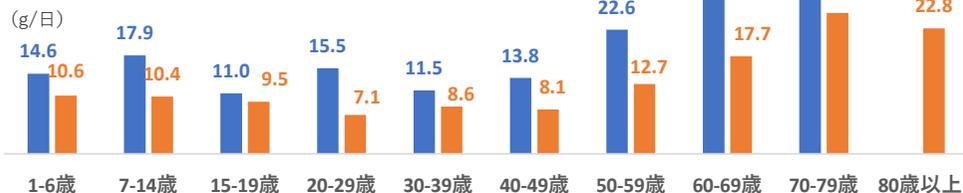
【現状認識】

人口減少等による国内市場縮小への対応が必要

年齢階層別の1日当たりりんご摂取量

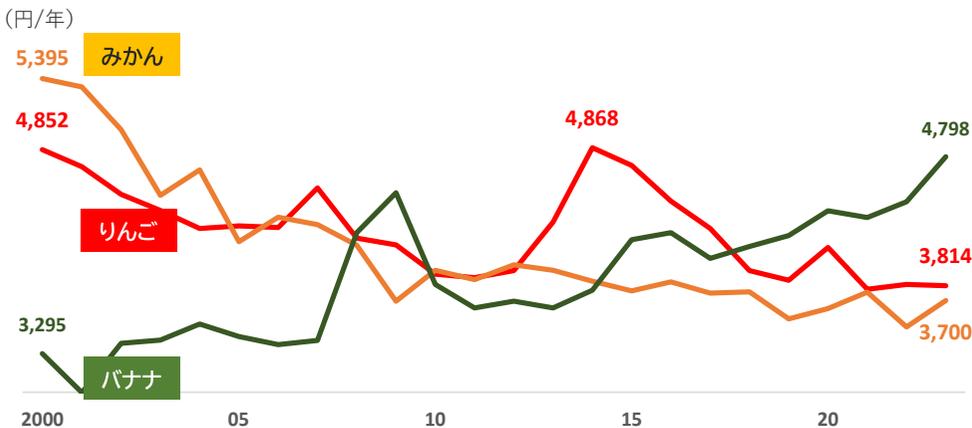
2013年 全年齢平均 23.6g/日
2023年 全年齢平均 15.1g/日

▲8.5g/日
(年間で約3kgの減)



厚生労働省国民健康・栄養調査：2013年の70～79歳層は70歳以上の意

一世帯あたりの果物購入金額の推移



総務省家計調査

【取組の方向性】

国内外から評価され続けるブランド価値の維持

消費動向に対応し国内需要を確保する

- ☑ 全国のスーパーや百貨店等における試食宣伝やキャンペーンを通じてりんごの消費を促進
- ☑ 若年層や子育て世代を対象とした食育等による次世代の消費者を育成
- ☑ 飲食業や加工業と連携して食材及び加工品としての利用を促進



スーパーでの試食宣伝



若年層を対象とした食育

輸出先の信頼を確保し、更なる海外需要を開拓する

- ☑ 植物検疫等への適切な対応により輸出入りんごの信頼を確保
- ☑ 贈答需要への的確な対応と自家消費需要の開拓
- ☑ 海外のニーズを踏まえた試食宣伝や情報発信、現地業者との連携強化による新規需要開拓

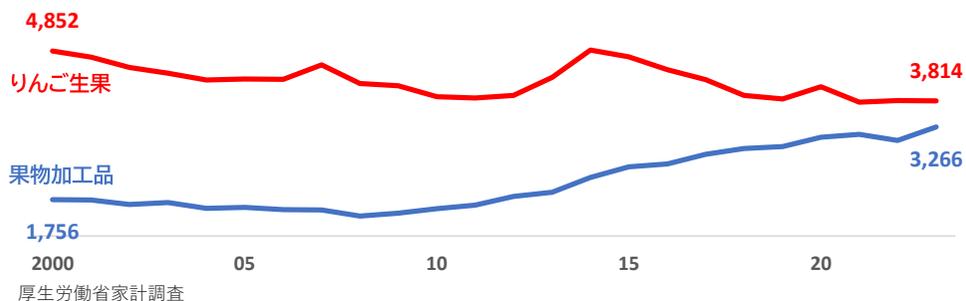
5 行動指針 (2) 販売力の強化

【現状認識】

加工業の持続発展に向けて、原材料の調達対策が必要

1世帯当たりの加工品等購入金額の推移

(円/年)



りんご加工仕向量と加工原料価格の推移(本県)



【取組の方向性】

加工業者の生産参入や生産者との連携強化

加工業者の生産参入を促進し、原料を安定調達する

- ☑ 加工業者が、後継者不在のりんご園を継承したり、放任園を復元して園地整備し、生産に参入する取組を推進

生産・加工の連携強化を図り、加工業を拡大する

- ☑ 生産者と加工業者が連携し、原材料の安定調達やこれを契機とした取組(※)の展開を促進

※取組例

- 加工業者の提案した商品を、生産者と連携して生産する取組
- 繁忙期の農作業を、加工業者が従業員教育の一環として請け負う取組
- 加工業者の出資等により加工専用りんご園を整備する取組



観光や関連産業との連携を深め、収益源の拡大と地域エンゲージメントの向上を図る

生産量の拡大は、関係者のみでは完遂困難。青森りんご産業の活性化や持続可能な産地づくりに、より多くの人々の参画が必要

【現状認識】

文化観光



高い知名度・ポテンシャルを生かした観光等の振興が必要

- 本県は、国内はもとより、台湾・香港では、高品質りんごの生産地として知名度が高く、更なる観光需要の増加が期待される
- りんごの加工現場(お酒・ジュース工場等)、りんご箱や剪定鋏の道具、街中のりんごデザインといった、観光につながる素材が豊富にある

関連産業



経済成長が期待される関連事業への進出が必要

- アップサイクル等の循環経済の市場規模は拡大が見込まれ、中間生成物の有効活用の取組により収益源の拡大が期待できる
- ヘルスケア産業の市場規模の拡大に合わせた、収益源の拡大が期待できる

情報発信



青森りんご産業の“本当の価値”を発信することが必要

- 明治から続く輸出、青年農業者の育成プログラム、生産・流通インフラの整備等、青森りんごが日本における農業再生の試金石である姿が伝わっていない
- 現実よりも辛く厳しいものとして、りんご産業が捉えられている

【取組の方向性】

価値観や素材を生かした産業観光の拡大

知名度の高さを生かして誘客を促進する

素材の磨き上げにより産業観光を推進する

成長が見込まれる産業分野への取組の拡大

資源循環に向けた取組を拡大する

ヘルスケア産業等への取組を拡大する

国内外への戦略的な発信と県民の貢献意欲の向上

我が国農業の成功モデルであることをPRする

地元住民等に対する継続的な情報発信を強化する

5 行動指針 (3) 経済波及の拡大

【現状認識】

高い知名度・ポテンシャルを生かした観光等の振興が必要

日本の観光地認知率

(単位：%)

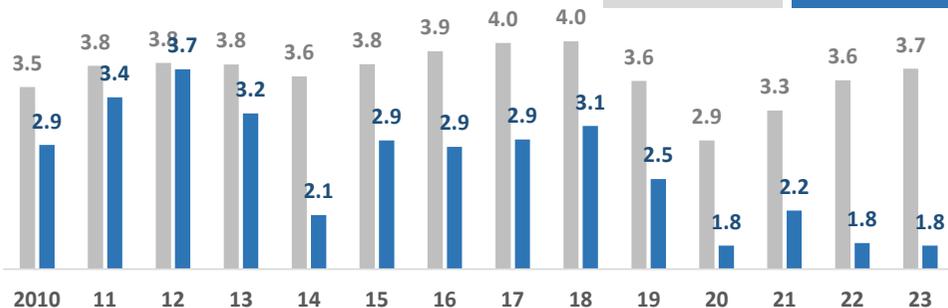
項目	韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	アメリカ	オーストラリア	イギリス
北海道	55	47	77	58	59	60	10	26	11
青森	17	9	48	29	9	7	5	3	4
秋田/角館	5	12	24	17	5	5	3	2	2
山形/蔵王	3	3	24	14	6	4	3	3	4
岩手/平泉	5	7	20	17	6	3	2	2	1
仙台/松島	14	16	34	25	17	6	3	3	3
福島	37	24	40	30	26	21	15	32	24

(株) 日本政策投資銀行

○訪日外国人旅行者の**本県の知名度は、台湾・香港で突出して高く**、輸出りんごの拡大による観光分野への相乗効果が期待できる

観光農園売上高の推移 [全国・本県]

全国 (百億円) 本県 (億円)



農林水産省「6次産業化総合調査」

○全国ではコロナ禍から復調しつつあるが、**本県では低迷が続いている**

【取組の方向性】

価値観や素材を生かした産業観光の拡大

知名度の高さを生かして誘客を促進する

- ☑ りんご関連事業者と観光等事業者が連携した体験型プログラムの拡大、イメージ向上につながるフォトジェニックなポイントのPR



弘前シールドルダイニング



街中にあるりんごデザイン

素材の磨き上げにより産業観光を推進する

- ☑ りんご関連産業(※)の観光素材として磨き上げ
※りんごの加工現場(アップルブランデー蒸溜所、ジュース工場等)、りんご箱や剪定鋏などの道具、関係者が育ててきた技術等



加工工場見学ツアー



りんごの木箱作り

5 行動指針 (3) 経済波及の拡大

【現状認識】

経済成長が期待される関連事業への進出が必要

循環経済(※)の関連市場規模の拡大



経済産業省「成長志向型の資源自立経済戦略」

りんご産業の取組事例

搾り粕を、ビーガンレザーやバイオプラスチック、段ボールに活用



※資源を循環利用し続けながら、新たな付加価値を生み出し続けるシステム
3R（リデュース、リユース、リサイクル）に加え再生可能資源への代替等
アップサイクルも含まれる

ヘルスケア産業(※)の市場規模の拡大



経済産業省「新しい健康社会の実現に向けたアクションプラン」

りんご産業の取組事例

- ・りんごの機能性を生かした健康志向食品や化粧品の開発・製造
- ・企業等と連携した精神的な疾患で求職している人の職場復帰支援（リワーク）
- ・障がい者施設と連携した就労支援（ユニバーサル農業）

※健康の保持や増進に役立つ商品やサービスを提供する産業
医療、介護、健康食品、健康器具、リワーク支援、健康関連サービス

【取組の方向性】

成長が見込まれる産業分野への取組の拡大

資源循環に向けた取組を拡大する

- ☑ 摘花・摘果・摘葉・剪定枝・搾り粕等中間生成物の有効活用を推進
- ☑ 産学官の連携によりアップサイクルを推進
- ☑ りんごサプライチェーンにおける脱炭素化の可視化・実践によるCO₂排出量削減ビジネスの展開を検討



摘果果実の利用



剪定枝の利用

ヘルスケア産業への取組を拡大する

- ☑ 産学官の連携によりヘルスケア産業の取組を推進
- ☑ 首都圏企業等との連携により、りんご作業を核としたリワークプログラムを実践
- ☑ 作業委託や雇用の拡大によりユニバーサル農業を推進

5 行動指針 (3) 経済波及の拡大

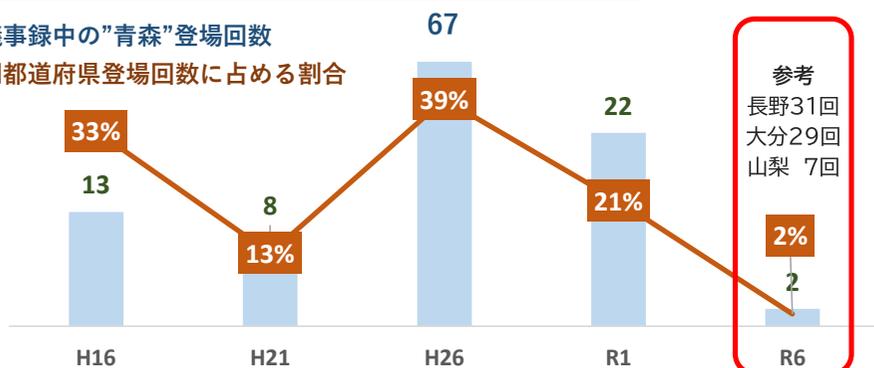
【現状認識】

青森りんご産業の“本当の価値”を発信することが必要

国「食農審果樹部会」での本県取り上げ数等

議事録中の“青森”登場回数

同都道府県登場回数に占める割合



○国の「果樹農業の振興を図るための基本方針」の検討の過程で、本県が話題に上がることが激減している

農業とのつながりが少ない住民の誤解・誤認



恵まれないうりんご農家さんを助けたい。

本県には売上げ1千万円以上のりんご農家が1千経営体以上います。また、多くが家族経営で、子や親を養い、税金を納めています。



災害などの報道が多く、青森りんごは無くなってしまおうのでは？

自然災害は辛く厳しいものですが、青森りんごは幾多の困難を乗り越えてきました。今後も乗り越えていきます。

○SNS等による誤った認識の拡幅（エコーチェンバー）が懸念

【取組の方向性】

国内外への戦略的な発信と県民の貢献意欲の向上

我が国農業の成功モデルであることをPRする

- ☑ 政府、中央官庁、大手マスメディア、経済会のキーパーソン向けのブリーフィング、表敬、現地視察招致等を計画的に実施

2006年1月20日 小泉純一郎内閣総理大臣 施政方針演説（抜粋）

世界的な日本食ブームやアジア諸国の生活水準の向上を背景に、**リンゴ**やイチゴ、長芋、コシヒカリ、アワビなど**日本の農水産物が海外で高級品として売られています**。北海道と青森県のホタテ加工業者は、5年以上かけEUの厳しい衛生管理審査に合格して輸出を始め、昨今はアメリカ、韓国へ販路を拡大しています。意欲と能力のある経営に支援を重点化し、攻めの農政を進めます。

地元住民等に対する継続的な情報発信を強化する

- ☑ 商品のPRに限らず、りんご産業を知ってもらうための情報発信や交流会といった機会の創出に向けた取組を強化



農家女子グループ ノウタノ

6 青森りんご総合戦略検討会議

青森りんご総合戦略の策定に当たり、多分野にわたる関係者から構成される検討会議を設置し、会議により内容を検討
また、検討委員を始め、多くの関係者からヒアリングを実施

青森りんご総合戦略検討会議委員

国立大学法人 弘前大学 農学生命科学部 教授
地方独立行政法人 青森産業技術センター 理事長
あおり創生パートナーズ株式会社 専務取締役
取締役

公益財団法人 青森県りんご協会 会長
株式会社 RED APPLE 代表取締役
株式会社 百姓堂本舗 代表取締役
株式会社 SATO FARM 代表取締役
中村さんちのりんご園

全国農業協同組合連合会 青森県本部 副本部長
青森県りんご商業協同組合連合会 会長
株式会社 日本農業 代表取締役CEO

一般社団法人 青森県りんご対策協議会 会長
青森県農村工業農業協同組合連合会 代表理事長
弘果 弘前中央青果 株式会社 代表取締役社長
公益社団法人 弘前観光コンベンション協会 事務局長

弘前市 農林部 部長
南部町 農林課 課長
青森県 農林水産部 部長

石塚 哉史 [議長]
坂田 裕治
高橋 勇人 (R7.8月~)
松田 英嗣 (~R7.7月)
内山 国仁
赤石 淳市
高橋 哲史
佐藤 恵美
中村 修子
笹森 俊充
丹代 金一
内藤 祥平
加川 雅人
小笠原 康彦
葛西 静男
白戸 大吾
澁谷 明伸
高森 正博
成田 澄人

青森りんご総合戦略検討会議の開催

第1回 令和7年6月26日(木)
13:30~15:30

第2回 令和7年8月18日(月)
13:30~15:30

会場:新町キューブ



青森りんご総合戦略に係るヒアリング先

- 県民対話集会「#あおばな」
つがるにしきた農業協同組合 令和5年8月21日(月)
農業女子グループ「ノウタノ」 令和6年4月23日(火)
弘果総研りんご高密度植栽培研究会 令和6年6月22日(土)
中川原水源組合 令和6年7月11日(木)

- 生産者・販売事業者等への個別ヒアリング等
令和7年4月以降分 130先以上

